栃木県農業試験場いちご研究所
ニュースレター　第２号

＜本号の内容＞

○試験研究：「スカイベリー」の品種特性と消費者調査の結果
○生産・流通・消費：「スカイベリー」の栽培状況
○トピックス：全国のいちご生産状況
○いちごの“そうか！”：いちごとミツバチの関係は？

いちご研究所では、次代を担う新品種の育成や新技術の開発、消費動向などの調査・分析などの研究を行っており、研究成果や生産・流通などに関する情報を、皆様に分かりやすくお伝えするため、「いちご研究所ニュースレター」を発行しています。

第 2 号である今号では、「スカイベリー」の品種特性や全国のいちごの生産状況についてご紹介します。

試験研究:「スカイベリー」の品種特性と消費者調査の結果

1 「スカイベリー」の品種特性

「スカイベリー（栃木 i27 号）」は平成 26 年 11 月 18 日に品種登録されたいちごで、25 g 以上の果実の発生割合が約 70%と大果であることに加え、果形は、きれいな円錐形、果皮色は濃橙赤色で光沢があり、外観が優れています（写真 1、図 1）。

また、食味は糖度が「とちおとめ」と同程度で、酸度はやや低くまろやか、かつジューシーで上品な味わいであることから贈答向け需要に対応できる新たなとちぎいちごブランドとしての飛躍が期待されています。

栽培面では、いちごの重要病害である炭疽病や萎黄病への耐病性が「とちおとめ」より優れるなどの特徴を有していますが、生育に適する環境条件が「とちおとめ」と異なる点も多く生産現場では栽培技術の高平準化に向けた様々な取り組みが展開されています。

写真 1　「スカイベリー」の果実

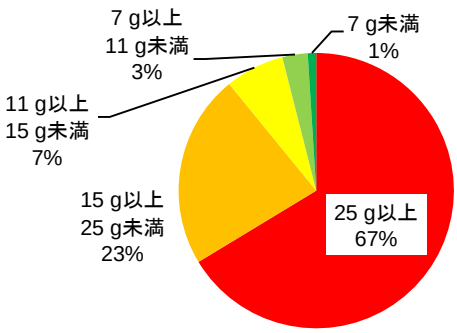

図 1　「スカイベリー」の階級別収量の割合
（農業試験場研究報告第 73 号　平成 27 年）

2 消費者調査の結果

消費者の「スカイベリー」に対するイメージについて、宇都宮市内及び東京都内のデパート、横浜市内の量販店で「スカイベリー」を購入した消費者を対象にアンケートを行い、312 名の方から回答が得られました。外観については、「形が良い」「大きい」が 70%超、食味については、「酸味が少ない」「甘い」「ジューシー」が 60%超となり、「スカイベリー」の品種の特徴が評価された結果となったことからも、贈答向けの需要に応えられる高級感のあるいちごとして期待されています（図 2）。

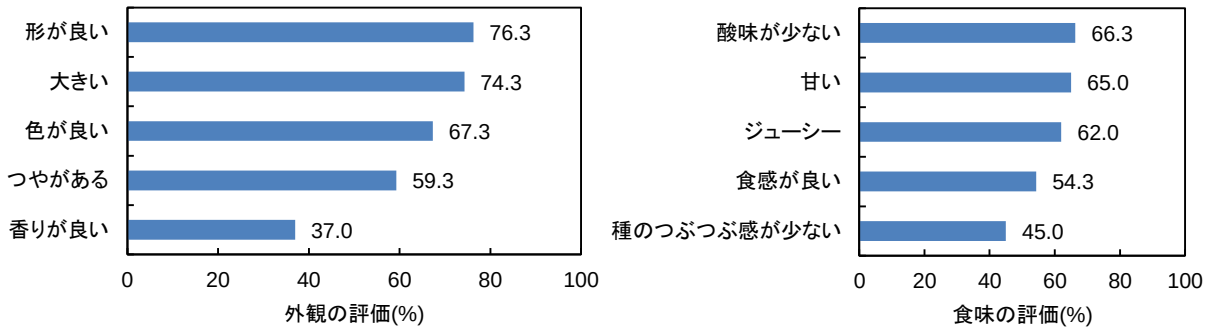

図 2　「スカイベリー」の外観及び食味の評価
（農業試験場研究成果集第 34 号　平成 28 年）

生産・流通・消費：「スカイベリー」の栽培状況

平成 30 年産の「スカイベリー」の栽培面積は 30.0 ha で、平成 25 年産から年々増加しています（図 3）。栽培戸数は、平成 30 年産で 257 戸であり、こちらも平成 25 年産から年々増加しています（図 3）。一戸当たりの平均栽培面積についても、増加傾向で、スカイベリー専作の栽培者も少しずつ増えています。

また、地区別では、下都賀地区（栃木市、小山市、下野市、壬生町、野木町）が、栽培面積、栽培戸数とも多く、「スカイベリー」の一戸当たりの平均栽培面積は、下都賀、那須地区（大田原市、那須塩原市、那須町）で県全体の平均より大きくなっています。

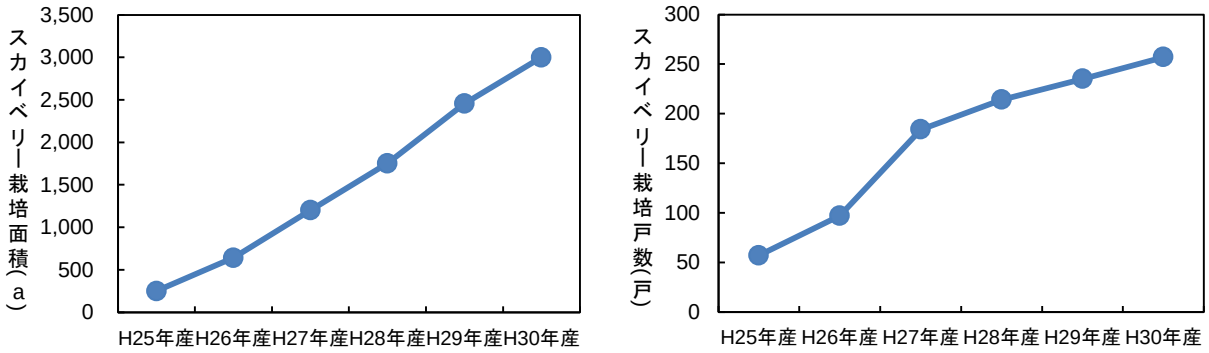

図 3　「スカイベリー」の栽培面積及び戸数の推移
（イチゴ試験成績書　平成 29 年、生産振興課調べ）

トピックス：全国のいちごの生産状況

農林水産省が行っている作況調査（野菜）で平成 28 年産のいちごの作付面積、収穫量等の調査結果の第 1 報が公表されました。

栃木県のいちごの収穫量は、平成 28 年産で 25,100 t で全国の収穫量の約 16%を占め、昭和 43 年産から平成 28 年産までで 49 年連続日本一となっています（図 4）。作付面積は、586 ha で全国の約 11%を栃木県が占め、平成 28 年産までで 16 年連続日本一となっています（図 5）。なお、栃木県の作付面積 586 ha は、東京ドームの数に換算すると約 125 個分となります（東京ドームの面積は 46,755 m^2）。

なお、昭和 50 年産以降の主産県のいちご収穫量、作付面積の推移は農業試験場いちご研究所のホームページに掲載してありますので、そちらもご覧ください。

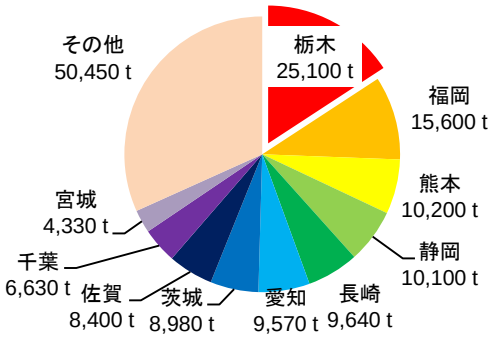

図 4　都道府県別いちご収穫量
（農林水産統計　平成 28 年産）

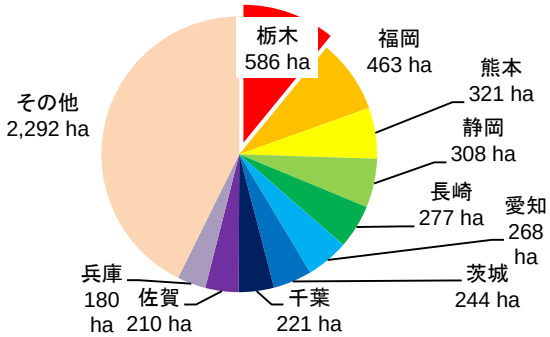

図 5　都道府県別いちご作付面積
（農林水産統計　平成 28 年産）

いちごの“そうか！”：いちごとミツバチの関係は？

そう果※(果実表面のツブツブ)を播種して生育させると「多様性を示すように、「そうか！」と思えるような様々な豆知識等」を紹介します

秋から春にかけてハウスの中でいちごを栽培していると、外からハウスの中にやってくる昆虫がいないんだ。そこで、ハウスの中でミツバチを飼うことで、ミツバチには受粉をしてもらって、形のきれいないちごをつくる手伝いをしてもらっているよ（写真 2）。だから、いちごの栽培にミツバチは欠かせない存在なんだ。

写真 2　いちごの花にとまるミツバチ

栃木県農業試験場いちご研究所ニュースレター第 2 号　　平成 29 年 12 月 14 日　発行

発行　栃木県農業試験場いちご研究所
※本ニュースレターの無断転載を禁止します
〒328-0007　栃木県栃木市大塚町 2920　TEL: 0282-27-2715　FAX: 0282-27-8462
E-mail: nogyo-s-ichigo@pref.tochigi.lg.jp　URL: http://www.pref.tochigi.lg.jp/g61/

※いちごの実の表面のツブツブを「そう果」と言います。「そう果」はいわゆる種で、「そう果」から育てたいちごの苗は 1 株、1 株が異なる性質を示します。